

夕暮れ症候群に対する DVD 鑑賞の効果

- 認知症を有する 4 名の症例報告を通して -

大阪府 医療法人 聖志会 渡辺第二病院

○若松 厚志、谷藤 晴美、佐藤 暁美、緒方 智子、吉田 順子、岡田 由美子、柳田 勝

Key Words

夕暮れ症候群 DVD 鑑賞

I. はじめに

夕暮れ症候群とは、認知症性高齢者において午後から日没頃になると徘徊・興奮・攻撃・叫び声・介護に抵抗などの不穏な行動や、壁などをとんとんたたき、シーツをつかむ、身体を引っかくなどの奇妙な行動が見られる状態である。

その原因は明らかでないが、注意障害や認知機能障害を背景にして夜間せん妄も関連しているといわれている。

心理的には、認知症患者の「家に帰りたい」という気持ちが、夕方になるにつれて強くなり、その結果、落ち着きがなくなると考えられている。またその心理が徘徊の原因となっていることがある。

平井らは、自身の著書において治療として薬物療法を勧めているが、ケア方法については、記載されていない。一方、夕暮れ症候群に対するケアの方法は、ある施設では、①午後に不安が募らないようする、②ゆったりした雰囲気づくりを行う、③夕暮れ時にいっしょに過ごす、④本人に仕事や楽しみを作ると報告している。また、鎌田は、夕暮れ症候群に対する個別ケアの方法として、「夕食を食べていかれてはかかですか？」や「もう一晩泊まってください」という働きかけを勧めている。また、夕暮れ症候群に日本の昔話や戦争当時の紙芝居が有効であったという報告がある。

以上のように、夕暮れ症候群には、さまざまなケアが有効であると報告されている。

今回我々は、老人性認知症治療病棟に入院している患者さんに対して、1ヶ月にわたって夕方に昭和時代のテレビで放映された DVD を鑑賞してもらい（以下 DVD 療法）、夕暮れ症候群に対する効果を調査したので、若干の考察を加えて報告する。

II. 対象

老人性認知症治療病棟：48 名

男性：23 名、女性 25 名

年齢：58～99 歳

疾患分類：老年期認知症？ 名 脳血管性認知症？名 アルコール性認知症？名

[症例 A さん] 老年期認知症、75 歳、女性、HDS-R：14 点、入院期間 8 ヶ月、帰宅要求が強く、徘徊が著明で不穏傾向がある。

[症例 B さん] アルコール性認知症、58 歳、男性、HDS-R：16 点、入院期間 8 ヶ月、帰宅要求が強く、徘徊が著明で不穏傾向がある。

[症例 C さん] 脳血管性認知症、59 歳、男性、HDS-R：9 点、入院期間 1 年、終日臥床がちである。

[症例 D さん] アルコール性認知症、63 歳、HDS-R：8 点、入院期間 1 年 3 ヶ月、終日臥床勝ちである。

III. 方法

①平成 19 年 1 月 4 日～1 月 31 日までの 1 ヶ月間

②夕方 16 時から 18 時までテレビのあるデールームに集合していただき、DVD を鑑賞していただく。

③DVD の題材：てなもんや三度笠、水戸黄門

④午後 16 時から 18 時まで、患者観察表を作成し、その様子を記載した。

IV. 倫理的配慮

4 名のご家族には、研究発表の主旨を説明し、同意を得た。全体の計画は、当院倫理委員会の承諾を得ている。

V. 結果

患者数 48 名中 40 名を 16 時にディルームに誘導することができ、その後に DVD 療法を行った。開始時は 40 名中 34 名が着席し 6 名が徘徊をしていた。DVD 療法を続けているうちに、帰宅要求や不穏となる回数が減少し、不穏時に抗精神病薬の頓用頻度が病棟全体で 1 ヶ月 24 回から 15 回に減少した。さらに臥床傾向にあった患者さんも離床するようになった。これらのことから DVD 鑑賞は、夕暮れ症候群のケアに効果があるものと考えられた。

[症例 A さん] DVD 療法前にみられた帰宅要求回数が減少し、とくに 17 時以降の帰宅要求が全くなかった。

[症例 B さん] DVD 療法前は、毎日夕方になると帰宅要求が出現し、それに伴う不穏を認めるため抗精神病薬の投与を 3 日に 1 回の頻度で行っていた。DVD 療法により不穏が軽減し抗精神病薬の頓用回数が月に 4 回と減少し、表情も見た目に穏やかになった。

[症例 C さん、D さん]、以前から呼びかけによってディルームに誘導を試みていたが、ベッドで臥床していることが多かった。「水戸黄門をやっているので観てみたら？」と、誘導を続けたところ離床し鑑賞されるようになり、DVD 療法後は夜間の不眠もなくなり、昼間の覚醒時間が増加した。

VI. 考察

夕暮れ症候群は、生活リズムの乱れと考えられ、その原因に心理的要因の問題があるとされている。特に、入院という環境変化には、多大な心的負担が考えられる。特に認知症患者は、

見当識障害があり、日中、訪問先と病棟と誤認しており、夕方になると、「自宅に帰らなければならない。」と、落ち着かなくなり、徘徊が出現するものと考えられる。通常、夕食を済ませた時期から落ち着きを取り戻すといわれている。

今回我々は、夕方に、DVD の鑑賞を勧めることで、夕暮れ症候群の症状の緩和を認めた。また、DVD の内容は、回想を促進する目的であらかじめ、過去にみたであろうテレビ番組を選んだところ、効果があった。他の医療機関では、日本の昔話や戦争当時の紙芝居の鑑賞に効果があったと報告されている。

以上のように、DVD の鑑賞によって薬物療法（抗精神病薬）の使用頻度も減少したことから、他の病棟でも広めていきたい。

VII. 引用文献

- 1) 鎌田ケイ子；家族で支援する痴呆老人介護マニュアル、保健同人社、1998
- 2) 夕暮れ症候群に有効だった紙芝居、袖ヶ浦さつき台病院ホームページから引用
- 3) 認知症ケアの実際各論、ワールドプランニング、2004
- 4) 平井俊策；夕暮れ症候群、老年期認知症ナビゲーター、メデカルビュー社、2006